

みち並み保存に関するATM鎌ヶ谷の考え方

わたくしどもATM鎌ヶ谷ワークショップは、対象路線のみちづくりの「みち並み保存」に関して、次のような考えをもっています。

◆ しっかりとした管理体制・組織造り

…「ATM鎌ヶ谷ワークショップが考える整備構想」(平成17年9月)より

ATM鎌ヶ谷ワークショップとしては、本整備構想にあるような整備をめざすだけでなく、整備後に良質な管理・有効な活用を図ることこそ、重要と考えております。そのためには、対象路線の管理・活用を図る組織として『(仮称)ATM道並み保存会』の設立をイメージしております。同組織は対象路線の整備が完了するまでに設立することを想定しており、その組織内容、活動方針、実施計画などについては、平成17年度から検討を重ねて参りたいと考えております。

◆ 5つの大方針でみち並み保存を考える

…平成19年度ATM鎌ヶ谷ワークショップの議論より

ATM鎌ヶ谷ワークショップは、平成15年度以降重ねた議論の結果、本構想の対象路線及び沿道エリアのみち並み保存に関し、右の5つの大方針を掲げます。

この方針の背景にあるのは、「ATM鎌ヶ谷ワークショップが考える整備構想」(平成17年9月)で掲げた『ATM鎌ヶ谷ワークショップが考える3つのポイント』(以下参照)です。

- ① 歩行者が安全に歩けること
- ② 美しい景観が形成されること
- ③ 賑わいあふれる空間が形成されること

大方針の1～4は上記①～③を分解したもの、と位置づけることができます。加えて、管理の観点で極めて重要なことは、「理解ある市民」を増やすことであるとの考えのもと、5を加えました。

この大方針をより詳細に分解し、具体的な施策、活動計画を検討し、実施するための基本書が、本書であると考えています。

大方針

1.清潔なみち

2.美しいみち

3.安全なみち

4.賑わうみち

5.理解ある市民

◆ 市民主体&官民協働で、具体的活動経験を“トライ&エラー”で重ねる

…平成19年度ATM鎌ヶ谷ワークショップの議論より

ATM鎌ヶ谷ワークショップは、前述の大方針を目標に、様々な活動計画を立案し、実際にそれら活動を実施していきます。また実施に際しては、ATM鎌ヶ谷ワークショップが市民主体&官民協働の体制である特徴(利点)を活かし、市民ならではの観点で、尚且つ行政及び関係機関等との協働を大切に、行っていきたくと考えています。

また、ATM鎌ヶ谷ワークショップは、みち並み保存の諸活動においては、“必ず成功する手法”“成果が約束された計画”は無いものと考え、検討した活動計画を例え小さい規模であっても実施し、その経験を検証することで、より良い手法を見出していきたいと考えています。わたくしどもが大切にしたいのは、“トライ&エラー”で経験を重ねるというスタンスです。

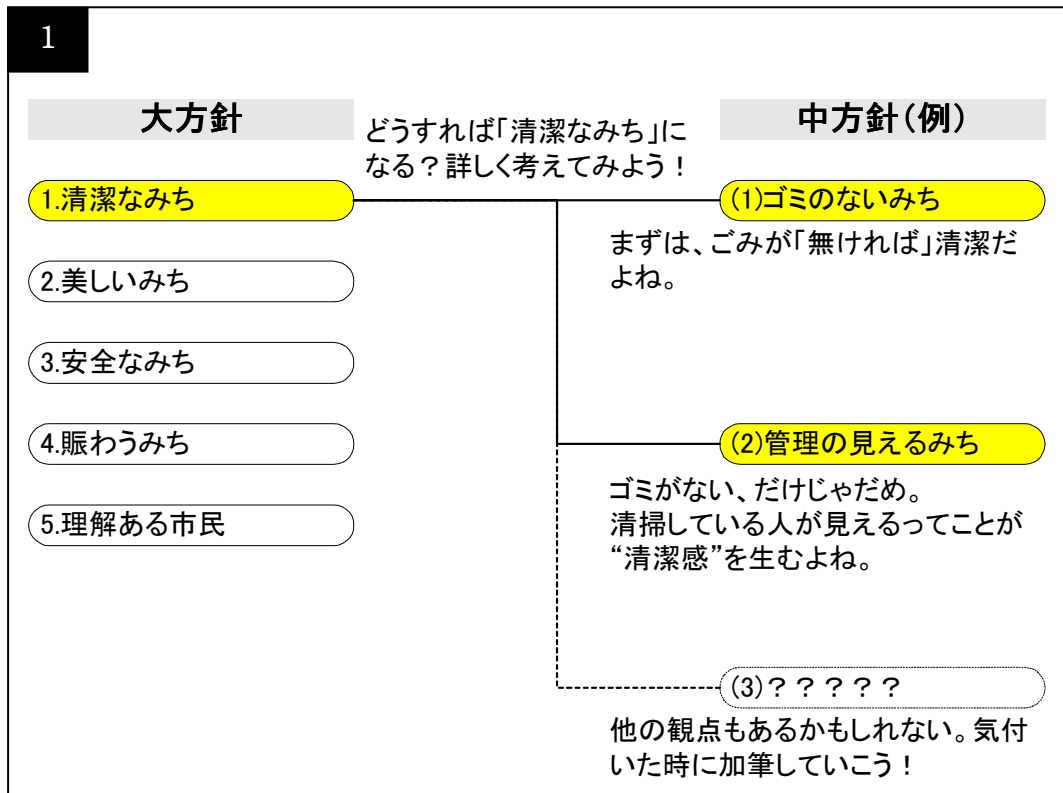
大方針を目標とした活動計画の検討方法

わたくしどもATM鎌ヶ谷ワークショップは、前述した5つの大方針を目標に、以下の流れで具体的な施策、ならびに活動計画を検討し、“トライ&エラー”で経験を重ねていきます。

◆ 5つの大方針をより詳細に分解し、それぞれの「中方針」を考える

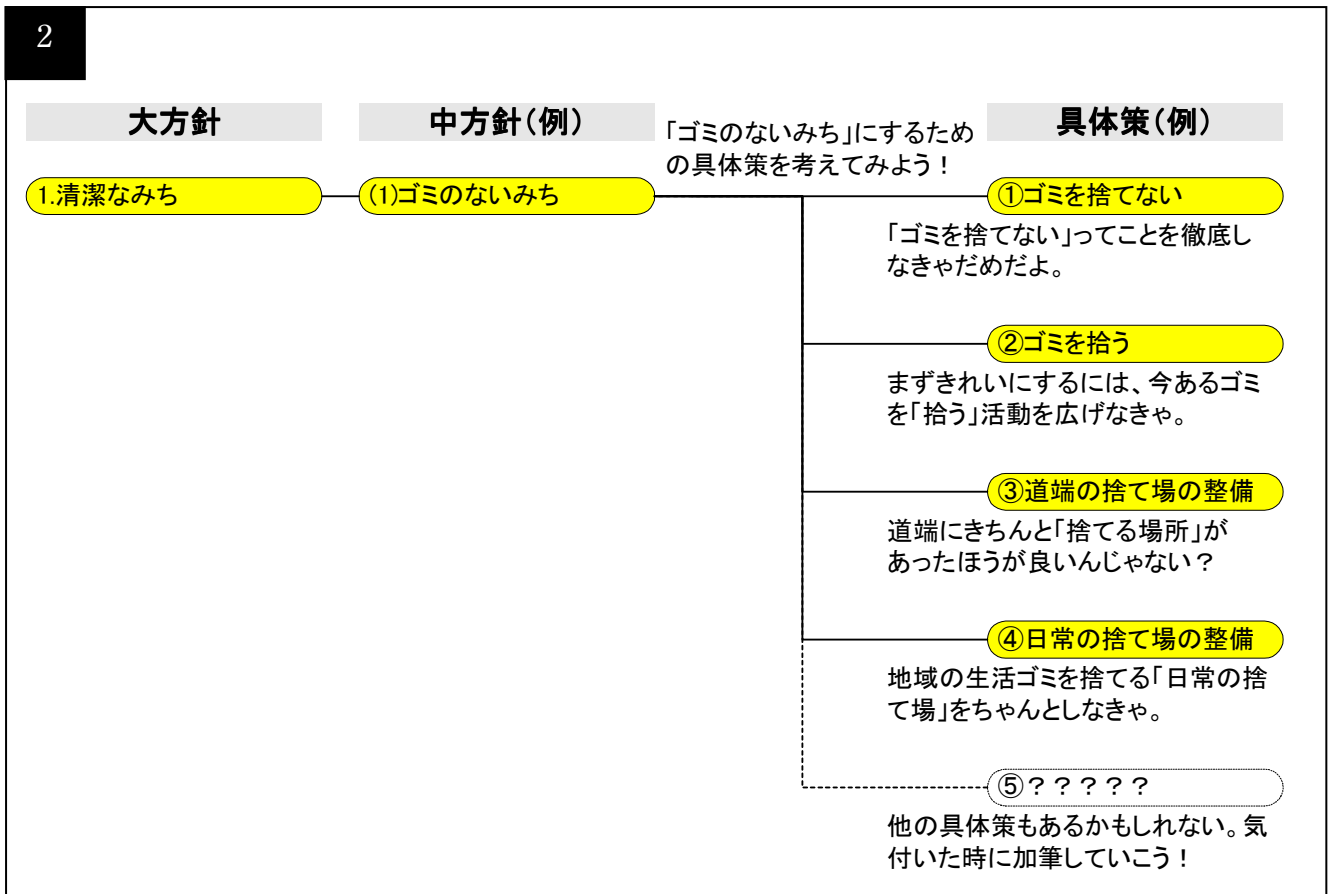
まず、大方針のひとつひとつについて、「どうすれば、その方針を実現できるか」もう少し詳しく考えるところからはじめます。

例えば「1.清潔なみち」については、「(1)ゴミのないみち」という方針と、「(2)管理の見えるみち」という方針があると思います。前者は、「ごみが「無ければ」清潔だろう」というベーシックな考え方ですが、後者は少々見方を変えて「清潔感」を重視した方針です。無論、他の観点もあるかもしれませんが、はじめから全ての観点を網羅しようとしては、会議に会議を重ねるだけです。気付いた時点で加筆するというスタイルで、思いついた範囲で、中方針を掲げていきます。



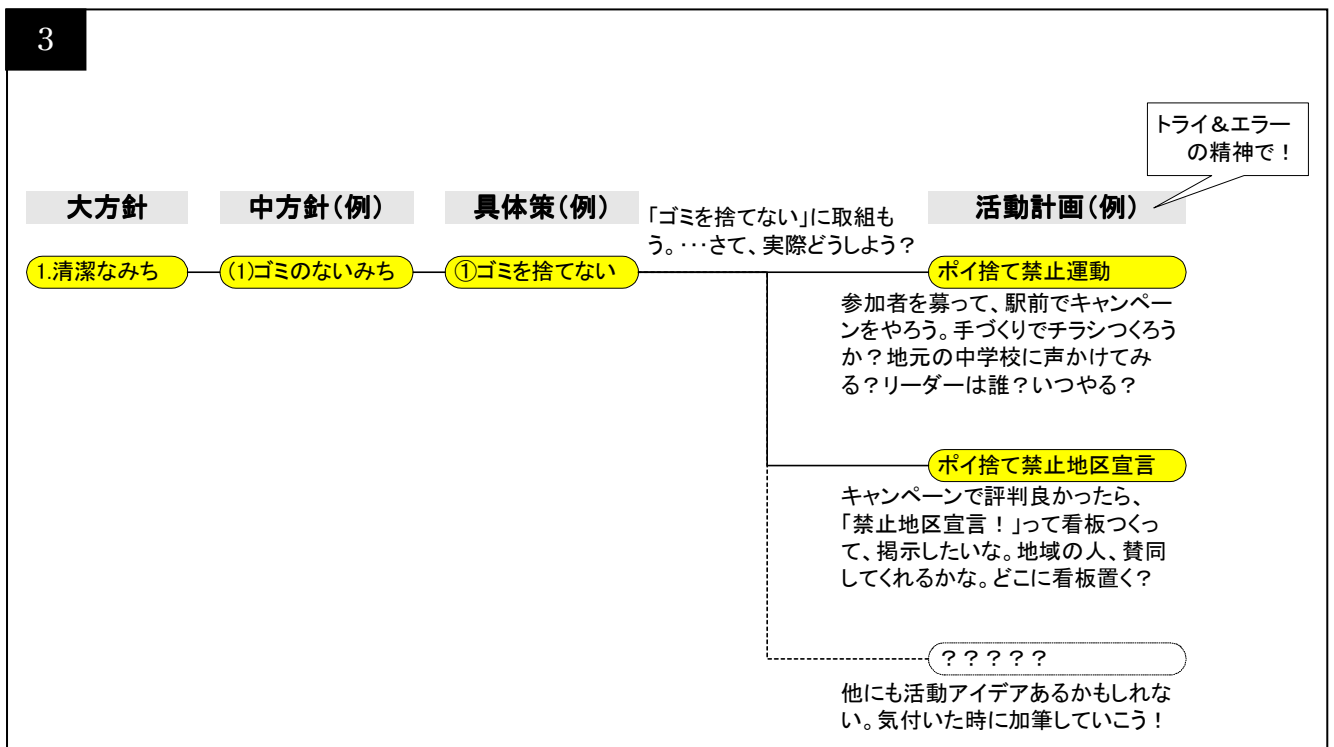
◆ 各中方針を実現するために、どのような「具体策」があるのかを考える

次に、各中方針を実現するための、具体策を考えます。例えば、「(1)ゴミのないみち」という中方針を実現するための具体策としては、4つほどあるのではないかと思います。一つ目は「①ゴミを捨てない」という具体策です。二つ目は「②ゴミを拾う」、三つ目は「③道端の捨て場の整備」、4つ目は「④日常の捨て場の整備」です。ゴミのないみちを実現するために、捨てない、拾う、捨て場を整備する(道端、日常の二通り)と考えたわけです。中方針と同様、この具体策についても、更に他の策があるかもしれませんが、その時点で思いつく具体策を挙げます。



◆ 具体策を行動に移す——活動計画を立案する

いよいよ、具体策を行動に移す段階です。ここで活動計画を立案します。例えば各中方針を実現するための、具体策を考えます。例えば、「①ゴミを捨てない」という具体策を行動に移す活動計画のアイデアとして「ポイ捨て禁止運動」と「ポイ捨て禁止地区宣言」を立案します。



各活動計画の立案に際しては、“トライ&エラー”の精神で、自由な発想で立案することが大切であると考えています。また、初めから大々的な計画を実施することは困難であると思われるため、比較的取組みやすい計画から立案する必要性もあると考えています。

また、地区内外、市内外の事例を参考に、“真似てみる”というスタンスも重要です。既成概念にとらわれず、硬く考えず、できることから始める、という姿勢が、ATM鎌ヶ谷みち並み保存の諸活動を、継続且つ発展的に行っていく秘訣であろうと考えています。

◆ 活動計画立案を、より効果的に行うために——4つの視点で検討

「“トライ&エラー”の精神で、自由な発想で立案」とは言え、実施の結果、例え“エラー”であったとしても次に活かす経験とするためには、事前にしっかりとした検討を行うことは必須です。このため、わたくしどもは、活動計画の検討に際して、4つの視点で検討します。

4

大方針

中方針(例)

具体策(例)

1.清潔なみち

(1)ゴミのないみち

①ゴミを捨てない

活動計画(例)

ポイ捨て禁止運動

「ポイ捨て禁止運動」をやりたいね。4つの「検討の視点」で計画内容を考えよう！

検討の視点			
効果	時間	コスト	妥当性
.	.	.	.

検討(例)

- 「ポイ捨て禁止運動」の **効果** は？

キャンペーン実施中は、ポイ捨ては減るだろうけれど、終了後はどうかな…。△ってとこかな？

効果
△
- 「ポイ捨て禁止運動」の効果が出るまでに要する **時間** は？

持続性に欠けるってことは確かにあるけれど、キャンペーンによってすぐに効果は出るよね。これは○。

時間
○
- 「ポイ捨て禁止運動」に要する **コスト** は？

手伝ってくれる人がボランティアだとすれば、実費は配布チラシ費用だけ？比較的安くすみそうだから○。

コスト
○
- 「ポイ捨て禁止運動」の **妥当性** は？

効果で△ついたけれど他は○。「1日だけ」でもやってみれるし。手伝ってくれる人さえいればできる。○で良いかな。

妥当性
○

★検討の結論 <評価△×対策>

「ポイ捨て禁止運動」は、妥当性として○が付く計画だと考える。課題は、「効果」が△であること。「配布するチラシ」の内容・デザインや「キャンペーン当日の声掛け」を“心に響く”ものとしなければならない。そのためには…

4つの視点は「効果」「(効果が出るまでの)時間」「コスト」「妥当性」です。

例えば「ポイ捨て禁止運動」の「効果」について議論し、「キャンペーン実施中は、ポイ捨ては減るだろうけれど、終了後はどうかな…。△ってとこかな？」という結論があれば、△とします。同様に、「時間」「コスト」についても議論して、×、△、あるいは○をつけていきます。その総合評価として、「実現性」(あるいは妥当性)について、×、△、あるいは○をつけます。

このように、ある一定のルール(視点)にしたがって議論しておくことで、複数の活動計画を見比べることもできます。例えば実現性が「○」となったものから着手するということは、最も素直な選択です。また、例え実現性が「△」であっても、効果が「○」であるものについては、「何が原因で実現性が△なのか」をすぐに見極めることが可能です。

つまり、この視点で検討することで、次のようなことが言えます。

△や×がついた視点の解決アイデアを考えることが、活動の有効性をより高める

しかしながら、実施する前に、評価△×対策を万全とすることは、必ずしも容易ではありません。例え解決アイデアが浮かばないとしても、解決アイデアが中途半端なものであったとしても、もし可能であれば実施に移し、実際の経験を踏まえて再考することが重要であろうと考えます。

ATM鎌ヶ谷ワークショップが考える活動計画の素案

わたくしどもATM鎌ヶ谷ワークショップは、前述した考え方に基づき、5つの大方針を分解し、現段階として、次頁の一覧に示す「活動計画の素案」を立案しました。

ただし、これら活動計画の素案については、前述した4つの視点における検討を実施しておりません。今後のATM鎌ヶ谷ワークショップにおいて、これらの素案のうち、適宜抽出して検討を深め、実施経験を重ねて参る所存です。

◆ これからのATM鎌ヶ谷ワークショップ——活動(トライ&エラー)の情報交換の場として…

以上の考えに基づき、わたくしどもATM鎌ヶ谷ワークショップは、東武鎌ヶ谷駅西口地区における「歩いて楽しいみちづくり」に対して、今後は新たに「みち並み保存」の観点で議論を重ねて参ります。

道路整備等に関し、今後の進捗状況を見守る一方で、今後は、みち並み保存に関して議論すると共に、「具体的活動」——トライ&エラーの経験を、互いに披露し、その結果を検証し、次に活かすために議論する、情報交換の場として、ATM鎌ヶ谷ワークショップを機能させていきたいと考えています。

このワークショップ(情報交換の場)自体が、前述した5つの方針のひとつ、「5.理解ある市民」を目標とした一つの活動計画ともなります。(情報交換会議の開催:次頁一覧参照)

これからも関係者の皆様のご協力、ご賛同、ご参加をお願いします。